

ひたち物語

～ひたちらしさの数々～

“モノづくりの礎”

小平記念館

私たちの故郷日立市。

明治時代以降、鉱業や電気機械工業の発展とともに成長した日本有数の工業都市として知られてきました。

また、西は阿武隈山地、東は太平洋に望み、豊かな自然と穏やかな気候に恵まれ、春には市内一円が桜色に染まる桜のまちでもあります。

さらに、農林水産業も盛んで、おいしい魚や野菜、果物に恵まれるなど、様々な表情を併せ持っています。

日立市固有のものや、他に比べ独自性・優位性を持つものなどの「ひたちらしさ」を紹介する「ひたち物語」。

私たちの身近にあり、日々の生活にとけこみ、当たり前のように感じている『ひたちらしさ』は、実は魅力的な物語を紡いでくれます。

是非、これらの物語をお楽しみいただき、皆さんもオリジナルの物語を紡いでみてください。

「モノづくりの礎」

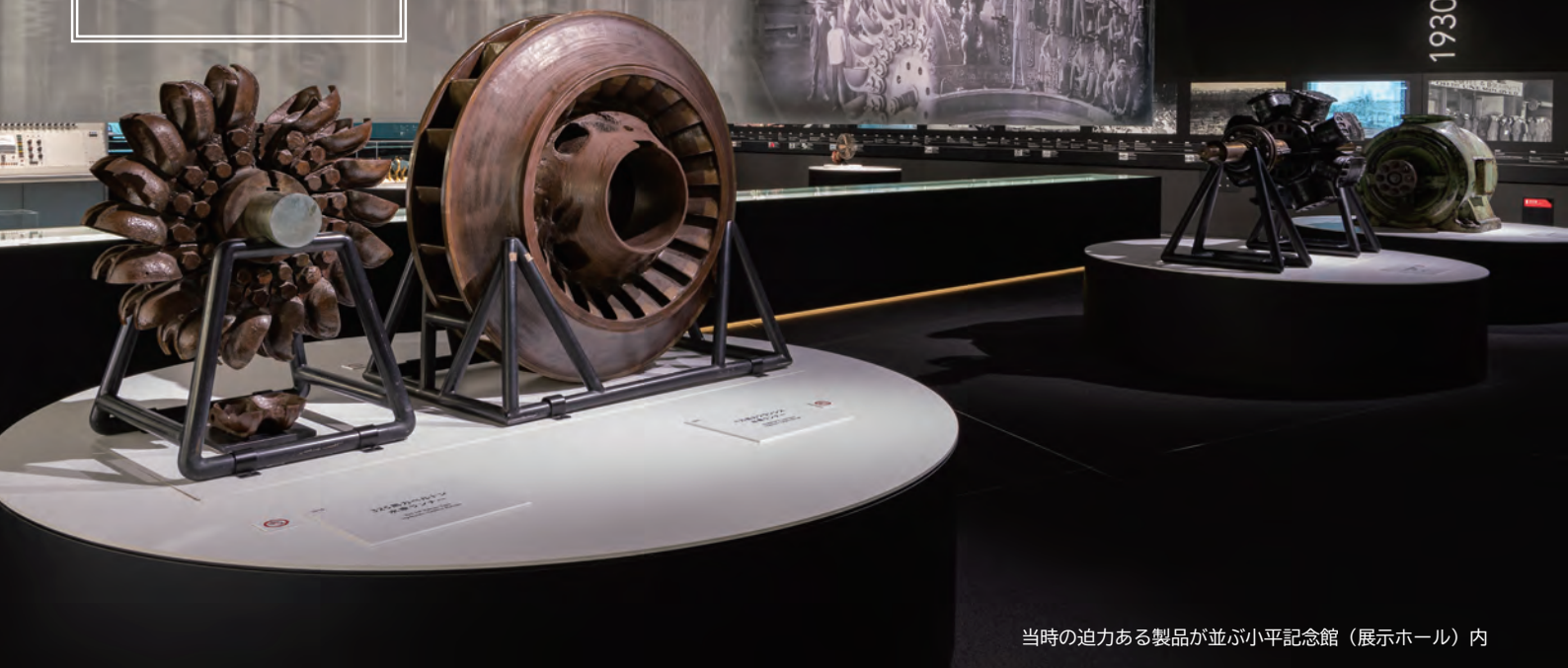
今回は、日立市で創業した2つの企業の先人たちのあゆみを伝える「日立オリジンパーク」と「日鉱記念館」をご紹介しますとともに、2人の創業者の精神と日立市発展の関係に迫ります。

また、「企業城下町 日立市」の特長的な理科教育の取組についてもご紹介します。

私たちの何気ない日常には、「モノづくりの精神」が脈々と受け継がれているのかもしれません。

日立グループの原点

日立オリジンパーク Hitachi Origin Park



当時の迫力ある製品が並ぶ小平記念館（展示ホール）内

日立グループの原点へ

日立市の発展の大きな原動力となった日立製作所。

「日立オリジンパーク」は、1910（明治43）年に本市で創業して以来、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念に基づき世界中の社会課題解決に貢献してきた日立グループの挑戦の歴史と創業の精神を未来に伝えるため、令和3年11月にオープ

ンしました。

福利厚生施設であった「大みかクラブ・大みかゴルフクラブ」の敷地内に「小平記念館」と「創業小屋」が新たに建設され日立オリジンパークを構成しています。

小平記念館は、小平浪平が日立製作所を創業するまでの歩みを紹介する映像や当時の製品、タッチスクリーン・ARを活用し

たジオラマなどにより、日立の技術開発、挑戦の歴史を、日本及び世界の産業史とともに体感できます。

日立の原点である日立鉾山工作課修理工場を再復元した創業小屋では、創業製品の5馬力モーターが実際に動く様子や当時は再現した工具等の展示を通じて、創業時の苦労や息吹を追体験できます。



ガラス張りのエントランスからは、5馬力モーターが生み出された創業小屋が見えます。



展示ホールに入ると、小平の学生時代の日記が展示されています。



創業小屋では、作業の様子を再現した映像や、5馬力モーターを製作するための道具等が展示されています。

小平自慢のゴルフ場

「大みかゴルフクラブ・大みかクラブ」は、1936（昭和11）年に、社員の福利厚生と外国賓客の接待を目的に、「日立ゴルフ倶楽部」として開場したのが始まりです。

開場当時、東京ドーム約14個分の広さを誇る18ホール・パー74の本格的なコースは、数々の名コースを手掛けた井上誠一的设计によるもので、茨城県では初めて、全国でも14番目、企業が所有するゴルフ場としては日本初という、画期的なものでした。高床式寝殿造りの典雅なクラブハウスは、東大安田講堂の設計で有名な東京帝国大学建築学科教授・岸田日出刀きした ひでとの設計によるものです。

終戦後、農地化されたコースはシオン学園（現・茨城キリスト教学園）や政府への売却により、クラブハウス前の狭隘な芝生スペースを残すのみでした。

1950（昭和25）年、残った芝生で3ホールのショートホールから再開し、以降、徐々に拡張し、現在は、6ホールのコースで、一般の方にも親しまれています。

大みかクラブは、オリジンパークの開設に併せ、伝統的な建築様式を残しつつ、ユニバーサルデザインや省エネルギーに配慮した「おもてなしの場」としてリニューアルされ、地域をはじめ様々な人たちの新たな対話の場となっています。



クラブハウスから望むゴルフ場

グリーンは、開場以来、希少価値の高い高麗芝こうらいしばで整備されています。



おもてなしの場であるクラブハウス

小平が愛用したゴルフ用品の数々や敷地内で作陶されていた大甕焼なども展示されています。



1974（昭和49）年開催の茨城国体の際には、大みかクラブに昭和天皇・皇后がご宿泊され、前庭では「日立風流物」が披露されました。

— 基本情報 —

【住 所】 日立市大みか町 6-19-22
 【 ☎ 】 0294-87-7575
 【開館時間】 9:30-16:00（最終入館 15:00）
 【休 館 日】 水曜日・祝日
 【入 場 料】 無料
 【駐 車 場】 あり
 【アクセス】 JR 常磐線大甕駅西口から徒歩 10 分
 【 HP 】 <https://origin.hitachi.co.jp/>

“北関東の雄” 日立製作所硬式野球部

1915（大正6）年に創部、日立市に本拠地を構える名門野球部です。都市対抗野球大会出場常連チームであり、2016（平成28）年大会には準優勝しています。スタンドを埋め尽くすオレンジ色のウェアの大応援団の声援は、大会の名物となっています。



“日立発祥の球技” パンポン

日立製作所が創業して間もない1921（大正10）年頃に、社員のレクリエーションとして始められた球技です。木の板のラケットと木製のネット、軟式テニス用のゴムボールを用い行う、テニスと卓球を掛け合わせた競技です。



おだいら なみへい
小平 浪平

1874(明治7)年-1951(昭和26)年
/ 栃木県下都賀郡家中村(現 栃木市都賀町)生まれ / 東京帝国大学電気工学科(現 東京大学)卒

日立鉱山を買収した久原房之助の誘いを受け、1906(明治39)年に久原鉱業所日立鉱山に入社し工作課長を務め、1910(明治43)年に5馬力誘導電動機3台を製作。1920(大正9)年に久原鉱業所から株式会社日立製作所として独立。

(日立製作所 提供)



1910(明治43)年当時の「創業小屋」。
日立鉱山の機械修理部門として設立されました。
(日立製作所 提供)

— 創業者の精神 —

自主技術、国産技術によって製作するようにはなくてはならない。 それこそが日本が発展していく道だ。

電気機械の修理部門

小平浪平は、東京帝国大学を卒業後、小坂鉱山、広島水力電気株式会社、東京電燈株式会社を経て、1906(明治39)年に久原房之助くはら ふさのすけに請われ日立鉱山に入社しました。

小平は、工作課長に任命され、数少ない仲間と、40坪程の掘立小屋ほったてごやで、壊れた外国製の電気機械の修理を行いました。

機械の扱いが乱暴で、修理はおろか一から作り直すような状況の下、次第に小平たちは機械を製作するための知識や技術を

身につけていきました。

「自らの力で電気機械を作りたい」と、国産技術にこだわり、他の電機メーカーが外国企業と提携するなか、故障原因の調査や製作方法の研究を地道に進め、1910(明治43)年、技術者仲間と共に「5馬力モーター」を完成させました。

同年、純国産技術による電気製品作りを目的とした工場の建設が久原に認められ、約4000坪しばうち(1267㎡)の「芝内工場」が新設されました。

発展する工場とまち

1920(大正9)年、株式会社日立製作所が発足し、1929(昭和4)年には、小平浪平が社長に就任しました。

同年、広大な敷地に海岸工場が建設され、製品の大型化にも対応できるようになりました。

1939(昭和14)年には「多賀工場」が新設され、1952(昭和27)年に洗濯機を製品化したほか、掃除機や冷蔵庫、扇風機等の製造も行い、白物家電の基幹生産拠点として人々の生活の充実を支えるようになりました。



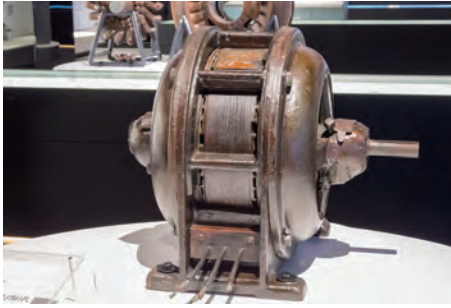
「5馬力モーター設計図」
小平たちの「自主技術」の原点ともいえます。



創業小屋内に展示されている「5馬力モーター」
製作から110年経過した今でも作動します。



1910(明治43)年頃の「芝内工場(現 山手工場)」
1267㎡の敷地に、本格的設備を備えた工場でした。
(日立製作所 提供)



日立製作所の第1号製品「5馬力誘導電動機」茨城県の指定文化財になっています。



日立初の輸出品である1920年代の「扇風機」量産化に成功後、アメリカに30台を輸出しました。



日立が初めて製品化した電気洗濯機。1952（昭和27）年に多賀工場にて生産されました。

和・誠・開拓者精神

1945（昭和20）年、太平洋戦争末期の米軍の攻撃により日立工場が生産能力の80%を失うなど、大きな打撃を受けました。しかし、小平の「全員協力して平和産業に取り組もう」との指揮の下、様々な苦境を乗り越え大きく発展し、1969年（昭和44）年、市内には大みか工場が建設されました。

小平はインフラ整備にも力を入れました。海岸工場の隣接地には、社宅・社員寮、野球場や体育館等の運動施設も整備され

た「^{おおせ しゃたく}会瀬社宅」を造成しました。また、水道や電鉄・バス会社の設立、日立病院（現 日立総合病院）の開院、日用品等を市場価格よりも安価で販売する「^{きょうきゅうじょ}供給所」の開設など生活環境の向上にも気を配りました。

さらに、創業当初から^{とてい}徒弟養成所（現 日立工業専修学校）^{ようせいじょ}を開設したほか、多賀高等工業学校（現 茨城大学工学部）の設立に協力し次世代の人材育成にも注力するなど、社会貢献を惜しみませんでした。

1939（昭和14）年、助川町・日立町が合併し、「日立市」が誕生しました。その後、日立市は企業城下町として発展し、今では、豊かな自然と産業が調和したまちとなっています。

「国の発展のためには、国産技術の向上が欠かせない」との信念を曲げることなく、常に新しいことに挑戦した小平。

その想いは、日立グループと本市発展の礎となり、現在にも受け継がれています。



1935（昭和10）年頃の「海岸工場」工場建設に伴い、まちも急速に拡大していきました。（日立製作所 提供）



1955（昭和30）年、会瀬グラウンドから望む「会瀬社宅」住宅地の計画立案者は、建築家の^{うちだしろ}内田祥三です。（日立市郷土博物館 所蔵）



1965（昭和40）年、「^{うさひ}兔平供給所」前の出勤風景 市内各供給所の中でも兔平供給所は最大規模でした。（日立市郷土博物館 所蔵）



日立工業専修学校全景。本格的な設備を備えた校舎・実習棟・寮など、知識・技能・技術を身につけるための充実した環境が整っています。

モノづくりのプロを目指す



電気科



機械科



溶接科

日立工業専修学校 旧 徒弟養成所

「モノづくり人財」を育成する株式会社日立製作所が運営する企業内学校です。「日専校(にっせんこう)」と呼ばれ、親しまれています。電気・機械・溶接の3学科があり、卒業後は全国に展開する日立グループの事業所に就職します。
(写真上・左・中央・右：日立工業専修学校 提供)

技能者養成機関にルーツを持つ企業内学校

日立工業専修学校は、日立製作所が運営する文部科学省認定の3年全日制の高等専修学校です。

1910(明治43)年、小平浪平が「事業の発展は人にあり」という理念のもと、日本や世界の産業と社会の発展に貢献できる人材育成のために設立した「徒弟養成所」が原点です。日立市出身で国民栄誉賞に輝いた作曲家吉田^{よしただし}正も卒業生の1人です。

全寮制で、設立当時は食事・衣服等は会社支給、午前中に学科授業を受けて、その後は工場実習を行っていました。

現在も、寮費・学費は原則無料で、高卒資格も得られます。また入社予定の事業所に赴き、約半年間の工場実習を通して社会人の基礎や製品知識、製造技術等を学びます。加えて卒業生の一部は、技能五輪に挑戦し、全国・世界大会でメダルを獲得するなど、優れた技能者の育成に大きく寄与しています。



1918(大正7)年頃の英語授業風景
(日立工業専修学校 提供)



1940(昭和15)年頃の日立工業専修学校
(日立工業専修学校 提供)

【住所】 日立市西成沢町 2-17-1
【 ☎ 】 0294-28-5009
【 HP 】 <http://www.hitachi-tech.ac.jp/>



茨城大学工学部日立キャンパス。1939（昭和14）年の多賀高等工業学校の創設に始まり、今日まで多くの技術者・研究者を輩出してきました。

高度技術者・研究者を育てる



茨城大学工学部
旧 多賀工業専門学校



小平記念ホール

キャンパスは日立製作所創業の地である日立市にあり、日立グループへのインターンシップ、共同研究といった交流も盛んであるのが特色です。木々に囲まれた施設で、最先端の研究と移りゆく四季を身近に感じながら教育研究に取り組むことができる、地域に開かれたキャンパスです。（写真上・左・右：茨城大学 提供）

国際的に通用する技術者教育

茨城大学工学部は、1939（昭和14）年、日立製作所の協力により、官立高等工業学校「多賀高等工業学校」として設立されたのが始まりです。その後、「多賀工業専門学校」に改称され、1949（昭和24）年5月に「茨城大学工学部」となりました。全国の国立大学工学部の中でも規模が比較的大きく、5つの学科で工学分野のほとんどをカバーしています。

工学部がある日立キャンパスは日立市の中央部にあり、周辺には日立製作所や三菱重工などをはじめとした高度な技術力を有する企業や、国立の研究開発機構や企業の研究所等が点在しています。日立グループ企業や地域の企業とも積極的な連携を図り、毎年多くの学生がインターンシップを実施しています。卒業生の多くは技術者・研究者として活躍するなど、日本のモノづくり発展に貢献しています。



1952（昭和27）年頃の校舎
（日立市郷土博物館 所蔵）



1954（昭和29）年頃の小平記念図書館
（茨城大学 提供）

【住 所】 日立市中成沢町 4-12-1
【 ☎ 】 0294-38-5004
【 HP 】 <http://www.eng.ibaraki.ac.jp/>

日上市発展の原点

日鉱記念館

Nippon Mining Museum



大型コンプレッサー（空気圧縮機）が展示される鉱山資料館内

日上市発展の原点

日上市の歴史を語る上では、日立鉱山の発展を欠かすことはできません。

日鉱記念館は、その日立鉱山（現 JX金属グループ）の創業の精神や発展の歴史に加え、日上市の歴史や日本の産業史などを学ぶことができる施設として、鉱山閉山後の1986（昭和61）年に開館しました。

創業者である久原房之助にち

なんだ資料が並ぶ「本館」、歴代の削岩機などを展示する「鉱山資料館」のほか「旧久原本部・塵外堂」、鉱山操業時に使用されていた2本の「^{たてこう}縦坑」など、日立鉱山の創業から今日に至る歴史、世界の鉱山の様子、日上市の発展の経緯などを学ぶことができます。

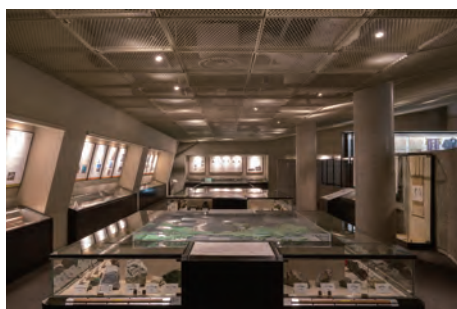
直方体の特徴的な建物「本館」1階には、創業者 久原の功績、

鉱山での暮らし、JX金属グループの歴史などに関する資料が展示され、創業者の精神に触れながら当時の鉱山の様子を知ることができます。

地下には、坑内の様子を再現した「^{もぎこうどう}模擬坑道」があり、実物機器と人形を用いた展示により、当時の作業現場をリアルに感じられます。



直線的デザインが目立つ本館
四季折々の美しい景観を楽しむこともできます。



本館1階の展示エリア
ところ狭しと並ぶ鉱石標本も見応えがあります。



模擬坑道内で展示される「^{もぎこうどう}模坑掘進」
当時の作業現場を間近で体験することができます。

鉱山と地域住民との協働の歴史

日立鉱山は、急速に発展を遂げ、^{あしお}足尾・^{べっし}別子・^{こさか}小坂と並び4大銅山と称されるようになりましたが、その発展の過程で煙害が激化しました。

本館2階には、農業環境を改善するため、^{ありゆうさん}亜硫酸ガスが農作物に与える影響を検証する「^{くんえんき}燻煙器」や煙害対策として建設され、当時世界一の高さ（155.7m）を誇った「^{だいえんとうつ}大煙突」に関する展示があり、企業と地域住民が、共存共栄を目指し、共に煙害対策に取り組んだ歴史を学ぶことができます。

鉱山と地域住民との協働、さくらのまちの原点が形づくられるまでの歩みは、昭和の文豪 ^{にった じろう}新田次郎の小説「ある町の高い煙突」に描かれ、令和元年に映画化されました。映画の撮影に使われた衣装や小道具、台本を展示するコーナーも特設されています。

本館の傍らには、開業当時、久原が居住し、幹部たちと労苦をともにした場を再現した「旧久原本部」があります。

1944（昭和19）年建設の木造のコンプレッサー室をそのまま活用した「鉱山資料館」では、大型機材や世界各地で産出された鉱石の標本を展示しています。^{さくがんき}削岩機コレクションや大型コンプレッサーの展示は圧巻で、当時の鉱山の勢いを感じます。



2階「日立の大煙突」エリア

企業と地域住民が共に、煙害の克服と自然環境の回復に取り組んできた歴史を学ぶことができます。



屋外の第一竖坑（手前）と第十一竖坑（奥）

地面と垂直に掘られた坑道（竖坑）は、従業員と鉱石を運搬する鉱山の動脈となっていました。



鉱山資料館内に展示される歴代の削岩機コレクション

時代の流れとともに、より小型化し高性能になっていく変遷を見ることができます。

—基礎情報—

【住所】	日立市宮田町 3585
【 ☎ 】	0294-21-8411
【開館時間】	9:00-16:00（最終入館 15:30）
【休館日】	月曜日・祝日・年末年始等
【入場料】	無料
【駐車場】	あり
【アクセス】	車で常磐自動車道日立中央 IC より約 10 分
【 HP 】	https://www.nmm.jx-group.co.jp/museum/index.html

—大煙突と桜並木に秘められた感動の実話— 映画「ある町の高い煙突」

日立鉱山の^{だいえんとうつ}大煙突にまつわる実話をモデルとした小説「ある町の高い煙突」には、市民と企業が協働して煙害を克服した本市の貴い歴史が描かれています。

市民と企業の協力による幾多の努力が今日の市の花「さくら」の原点であり、春になると市全体を見事にさくら色に染め、その歴史とともに市民の誇りとなっています。

映画化を機に、多くの方々に日立市ならではの奇跡の物語に触れていただき、大きな感動を呼んでいます。





くはら ふきのすけ
久原 房之助

1869(明治2)年-1965(昭和40)年
/長州・萩城下の唐樋町(現山口県萩市)生まれ/慶應義塾
本科(現慶応義塾大学)卒

鉱毒水騒ぎで経営が安定していなかった赤沢銅山を買い受け、1905(明治38)年に久原鉱業日立鉱山を創業。短期間で四大銅山のひとつに数えられるまでに発展させた。1914(大正3)年の大煙突建設や様々な取組により、煙害問題を克服した。

(日鉱記念館 提供)



本館の隣にたたずむ「塵外堂(持仏堂)」
記念館開設に伴い久原家から寄贈・移築されました。

— 創業者の精神 —

公害問題は常に新しい。

それは、人類に背負わされた永遠の十字架にも似ている。

鉱山と煙害

1905(明治38)年、久原房之助は赤沢銅山を買収、「日立鉱山」と改称し、のちに日立製作所の創業者となる小平浪平を招聘するなど、近代的な鉱山経営に乗り出しました。

しかし、銅の製錬に伴い発生する亜硫酸ガスにより煙害問題が深刻化しました。鉱山は被害住民と交渉し、補償金を支払い対応しましたが、根本的な解決には至りませんでした。

当時は、煙を低い煙突から排出し狭い範囲に留めることで煙

害が軽減すると考えられていました。しかし、久原は火山が高く煙を噴いても煙害をもたらさないことから、煙突を高くして煙を上空高くに拡散する方法を主張しました。この提案は、常識を外れたものでしたが、「日本の鉱業界の一試験台」として「大煙突」の建設に踏み切り、1914(大正3)年12月に当時世界一の高さを誇った大煙突が完成しました。

また、毎日気象を観測し、煙の方向や作物の生育状況によっ

て溶鉱炉の操業を調整する制限溶鉱も相まって、煙害は激減していきました。

荒れ果てた山々には、鉱山により煙害に強いオオシマザクラが植林され、これが現在の「さくらのまち日立」へとつながり、春になると市内は美しい桜色に染まります。

大煙突は、1993(平成5)年に3分の1を残して倒壊しましたが、今も操業を続け、住民と企業との共存共栄の歴史や誇りを伝えています。



1917(大正6)年頃の「大煙突と大雄院製錬所」
山肌が見え、煙害問題が深刻であったことがわかります。
(日立市郷土博物館 所蔵)



1910(明治43)年創設当初の「神峰山観測所」
現在は行政防災無線の基地局として活用されています。
(日鉱記念館 提供)



1917(大正6)年建設当時の「共楽館」
歌舞伎・歌謡ショー・映画会等が開催されました。
(日立市郷土博物館 所蔵)



※建物内部の一般公開は行っていません。

鉱山開業時、久原が住み、幹部たちと苦労をともにした場所「旧久原本部」
煙害問題解決のために大煙突の建設を決意したのも、この本部の一室でのことでした。建物は、茨城県の県指定文化財（史跡）にもなっています。

一山一家の精神

充実した福利厚生事業

鉱山では、都市部から離れた山深い環境で暮らす従業員やその家族の中に「一山一家」と呼ばれる相互の絆が強い独特の気風・風土が生まれました。

久原は、鉱山事業を成功させるためには「従業員が安心して働ける環境への配慮」が必要と考え、家族と共に生活できる住居だけでなく、学校や鉄道、病院、娯楽施設を含めたまちづくりに取り組みました。

社宅は、家賃・電燈料が無料で、外観は鉱員と役員との間に

差異がないよう簡素な造りとなっていました。

供給所では、食料、燃料、衣料、金物、雑誌など、市場価格よりも安価で販売していました。

大雄院製錬所と助川駅（現日立駅）を結んでいた「日立鉱山専用電気鉄道」は、無料で乗車できたことから多くの人に親しまれていました。

1910（明治43）年頃には県下随一の総合病院であった「大雄院病院（現日鉱記念病院）」、東京・歌舞伎座を模した本格的

な芝居小屋「共楽館（現日立武道館）」などは、先進的な取組であり、鉱夫たちは職・住一体の生活環境を「おらがヤマ」と呼び自慢しました。

日立鉱山は1981（昭和56）年に閉山しましたが、現在もJX金属株式会社は銅関連製品の製造を行っています。

様々な困難を乗り越え、日本の4大銅山として発展した日立鉱山とその共存共栄の精神は、「モノづくりのまち 日立市」発展の原点となりました。



本館には、「山中友子制度（徒弟・共済制度を合わせたもの）」にまつわる展示や日立鉱山神社の祭礼「山神祭」の様子など、当時の鉱山に暮らす人々の生き生きとした様子が写されたパネルが展示されています。



【参考文献等】『新修 日立市史』（日立市）、『日立市民文化遺産ガイドブック』（日立市郷土博物館）、『新郷土日立歴史・地理』（日立市郷土博物館）、『写真集 のびゆく日立』（日立市郷土博物館）、『写真集 写真でたどる日立百年のあゆみ』（日立市郷土博物館）、『日鉱記念館 HP』（<https://www.nmm.jx-group.co.jp/museum/>）

JX金属株式会社は、今後の需要拡大が見込まれる半導体バッテリーターゲットと圧延銅箔の生産能力増強を図るため、2021（令和3）年12月に、「日立北新工場（仮称、2023年度下期稼働予定）」と「日立新工場（仮称、2024年度上期稼働予定）」の2工場新設を発表しました。



写真上：日立北新工場（イメージ）
下：日立新工場（イメージ）
（JX金属株式会社 提供）





子どもたちの科学する力を養い、国際社会で活躍できる「未来を拓く人づくり」に寄与することを目的とし、理数教育支援を行う「NPO 法人日立理科クラブ」

世界に通じる理数教育の充実



ーシンボルマークの心ー

「子どもたちの科学の夢を広げよう」

「自然を大切にし、自然に学ぼう」

「教育を通じて社会貢献の和を大きくしよう」

「理科学モデル都市・日立市をめざそう」



理科実験で小学校授業支援



チームで課題挑戦～理数アカデミー～

日立理科クラブ

HITACHI SCIENCE CLUB

日立理科クラブでは、小・中学校に出向き、発展的な題材を取り入れ実験・体験学習を行う「小・中学校授業支援」のほか、将来、科学者や技術者をめざす小・中学生に向け各分野の専門講師が講座を行う「理数アカデミー」など、ハイレベルな理数教育を展開し、次世代を担う人材の育成に貢献しています。

未来を拓く人づくり

日立理科クラブは、日立製作所グループのシニアエンジニアや元学校の教員等で構成された、小・中学生への理数教育支援を行うNPO法人です。2009（平成21）年に設立し、市教育委員会と連携したユニークな教育活動に取り組んできました。

活動内容は、理科授業の支援や理科室の整理整頓を行う「理科室のおじさん」、理科・数学の関心を高める実験や演習を行う「理数アカデミー」、手づくり教材でモノづくりを体験できる「モノづくり工房」、身近な素材で水ロケットやレーシングカーを作る「科学ふしぎ発見教室」、地域のイベントで実験装置・工作を展示する「地域科学教室」など多岐にわたります。

子どもたちの「理科離れ」が問題となっているなか、日立市ではモノづくりのエキスパートたちによる、子どもたちの科学に対する好奇心を育てる教育が進められています。

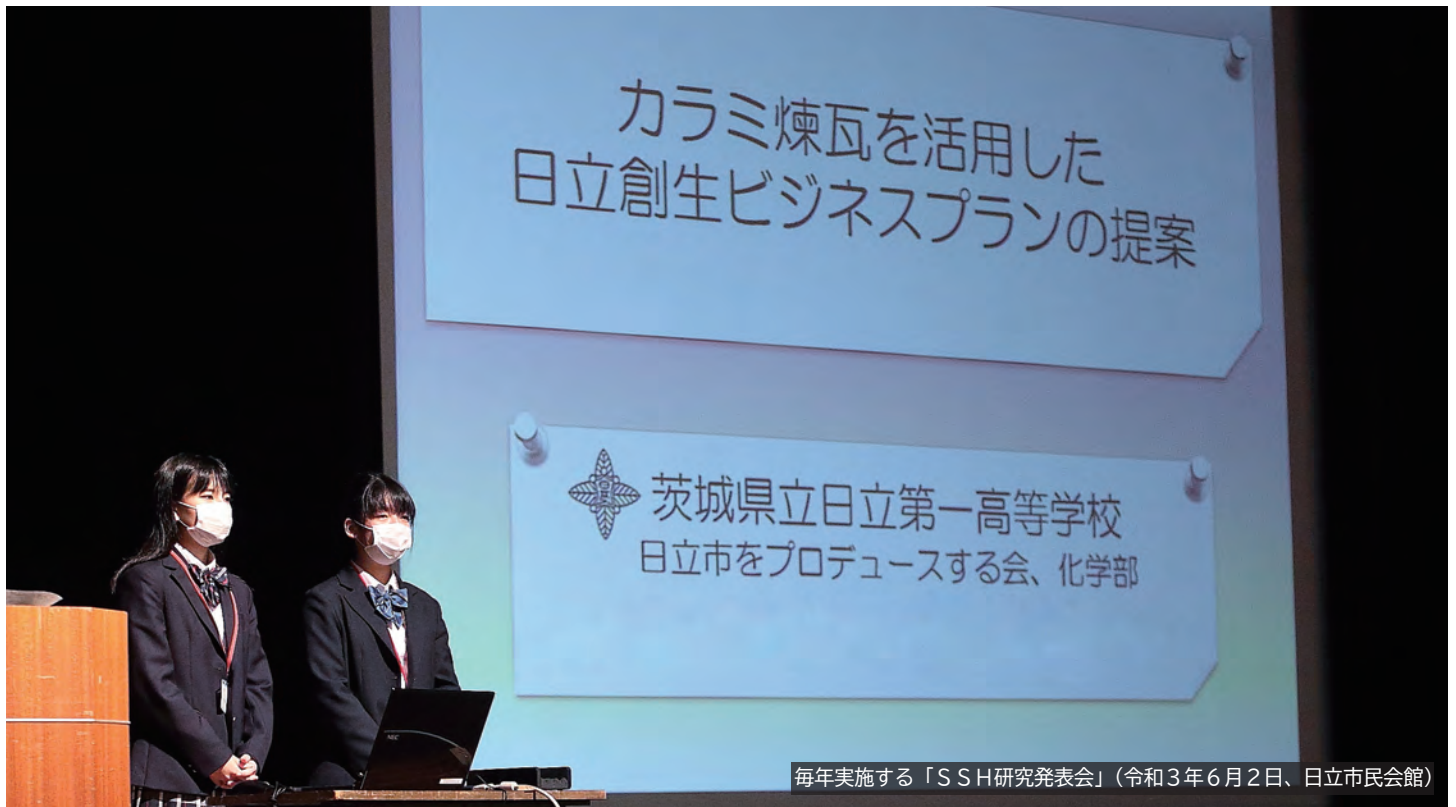


手づくり教材で工作する「モノづくり工房」



身近な材料を使って楽しめる「水ロケット教室」

【住 所】 日立市神峰町1-6-11 教育プラザ2F
 【 ☎ 】 0294-24-3104
 【 HP 】 <http://hitachi-rika.sakura.ne.jp/>



毎年実施する「SSH研究発表会」(令和3年6月2日、日立市民会館)

地域課題解決への提案・プレゼンテーション等を行う「IBARAKI ドリーム★パス AWARD」で(R2)総合グランプリを受賞した「日立第一高等学校」



茨城県立日立第一高等学校
茨城県立日立第一高等学校附属中学校

「高い志、科学する心、未来を切り開く力」



白堊研究Ⅱ



サイエンスリテラシー

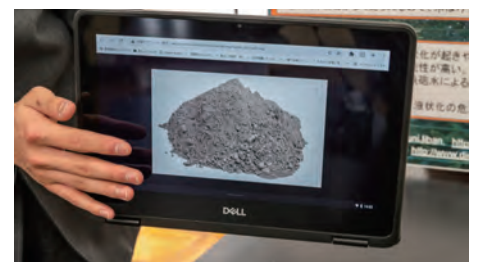
高校サイエンス科の科目「白堊研究Ⅱ」や中学校の「サイエンスリテラシー」では、研究スキルを身につけるとともに、ディスカッション力を高める取組を行っています。また、科学系部活動(数学部、物理部、化学部、生物部、地学部、附属中学校科学部)でも研究を盛んに行っています。

科学的ディスカッションができるリーダーの育成

茨城県立日立第一高等学校・附属中学校は、「科学教育」と「国際教育」に重点を置く併設型中高一貫教育校です。特に「科学教育」においては先進的な取組が数多くあります。

中学校では、研究・医療機関等における体験活動や1学年から研究の仕方を学び、2・3学年ではグループで研究し、発表の際には高校生とディスカッションを行う「サイエンスリテラシー」など、ハイレベルな科学教育を受けられる環境が整備されています。

高校では、2007(平成19)年から文部科学省よりSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受けており、学校設定科目「白堊研究Ⅰ」で研究の基礎スキルを習得し、サイエンス科は「白堊研究Ⅱ」で仲間とディスカッションしながら協働的に研究・発表をし、「白堊研究Ⅲ」で論文にまとめるなど、「課題研究」を授業に取り入れ、将来、科学技術や様々な分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成を図っています。



発表においてもタブレット端末を活用



附属中学校科学部が製作した電気自動車(太陽光パネルによる充電が可能)



大煙突とオオシマザクラ (JX金属株式会社 提供)

2022.3 発行

ひたち物語～ひたちらしさの数々～“モノづくりの礎”

日立市市長公室シティプロモーション推進課

茨城県日立市助川町1-1-1

TEL 0294-22-3111 内線 314

MAIL kochoep@city.hitachi.lg.jp



HP <https://www.city.hitachi.lg.jp/citypromotion/>

【アンケートご協力をお願い】



ご覧になった感想等をお聞かせください。



ひたちの魅力発信中  
日立市公式 SNS

